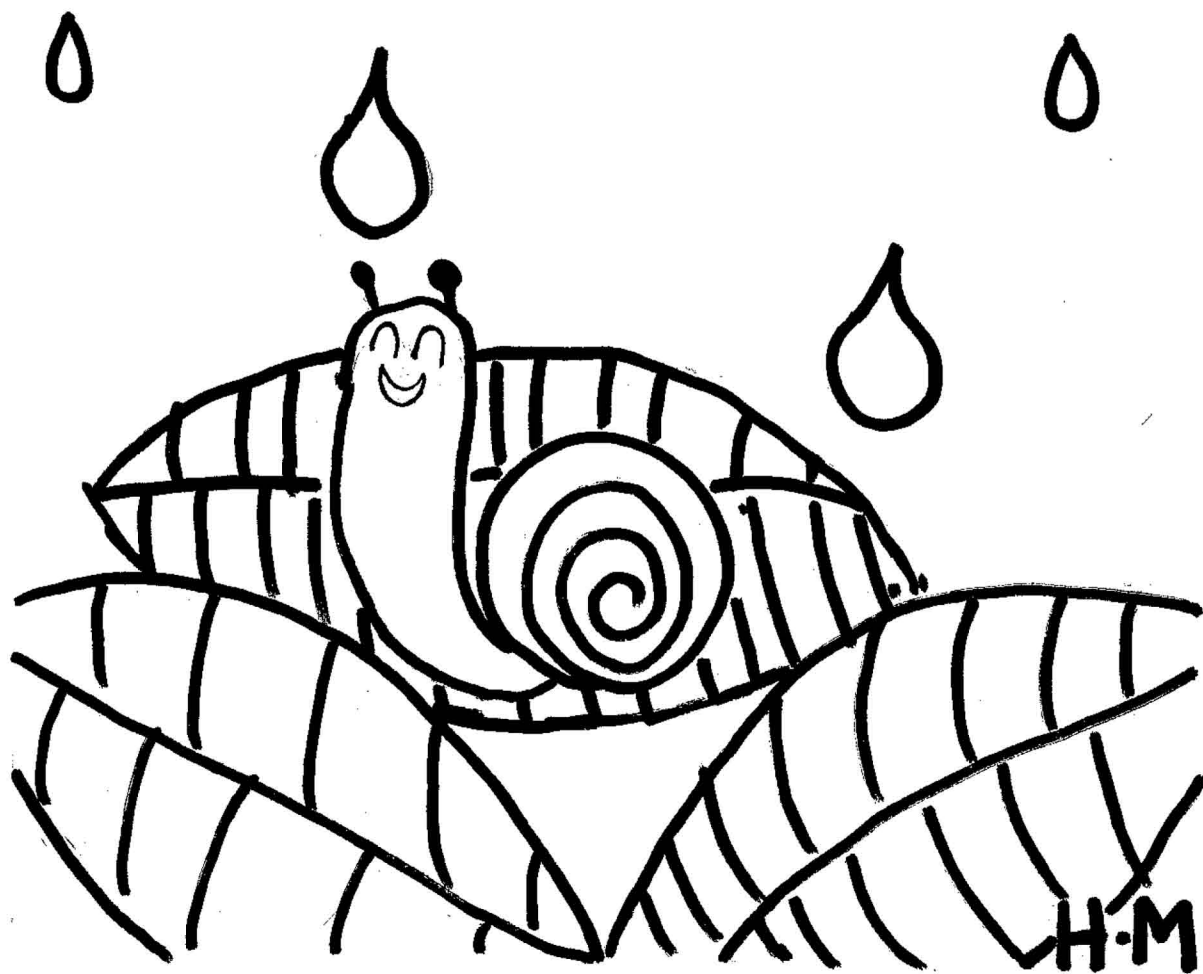


とよたち 美肌通信 6月号 Vol.23.



6月号の表紙は、11才の女の子が書いてくれました。
特技は楽器を演奏すること。
2年連続で金管バンドの全国大会に出場しています。



豊郷 Tachikawa Clinic

たちかわ皮膚科クリニック*

親の仕事の関係上、私は物心ついた時から大半を祖父母と共に過ごしました。例えば幼稚園の行事しかり、躰から箸の持ち方、道路の歩き方にはじまり、道徳や人生観まで教えてもらったと思っています。祖父母には 5 人の子供がいましたが、祖父の存在は 5 人の子供にとって絶対的でありかつ尊敬される存在でもあり、その事は私の目からも明らかでした。しかしその祖父に私は厳しくされた記憶はなく非常に可愛がってもらいました。ただ唯一、後にも先にも 1 度だけひどくおこられた事があります。

それは私が小学一年生になりたての時です。近くの駄菓子屋でヘビやカエルだの爬虫類を型とったゴム製のおもちゃがクジで売られていました。その中の一つにコウモリがあり私はとてもそれが欲しくなりました。そこでこともあろうか私は家人（←当然私の家です）の目を盗んで家から（おそらく 500 円位？）を持ち出し駄菓子屋へ走ったのです。早速意気盛んにクジ引いたのですが、きっと神様は見ておられたのでしょう。お目当てのリアルなコウモリとは縁がなく、2 回・3 回～5 回・・・とクジを引いたのに私の熱烈なラブコールにコウモリが答えてくれることはありませんでした。一方ポケットにはスカのカエルやクワガタ虫達がギュウギュウに押し込められていきました。するとそれを見かねた駄菓子屋のオバチャンが、「いったい何が欲しいんだい？」と言ってきてコウモリを指さすと、「しょうがないね、持っていきな」という感じで、コウモリを私の手の上にのせてくれました。それは実にクリスマスプレゼントにも勝る共劣らない贈りものでした。さて駄菓子屋を出た私は、意気揚々と帰路につきこの世の春を謳歌していましたが、確とある事に気がついたのです。ズボンの 4 つのポケットはスカのカエルやクワガタ虫ではちきれんばかり。このまま家に入ると祖父母に見つかってしまう。しかし覚悟を決めて一か八かで家に入った私は廊下であっけなく祖母に呼び止められました。その後は小学 1 年生でも予想通りの展開で祖父に大目玉を食いました。しかしここまでだろうと思ったのは甘く、仁王と化した祖父が私の手足をロープで縛り祖母も私を押えつけ、祖父に呼ばれた私の母まで参加してあばれる私に馬乗りになりそのまま私は庭の桜の木に縛りつけられました。

43 才になった今でもその日の事は鮮明に記憶しています。祖父の目は今まで見たこともない目つきであり、夢中でご免なさいを連呼したことを覚えています。

私も子を持つ親の一人ですが我が子を叱れない親にはなりたくないと思っています。子供は自分がおこられている理由が分からなければ、反発もするしいやな記憶しか残らず、それを重ねると人に親切になれず、傷つけることになりかねません。要はおこり方なのではないでしょうか。子供にもおこられる理由がある訳で、それを提示した上でおこるのであれば、きっと子供も理解して自分の罪を認めるのではないのでしょうか。現に私はそれ以来お金に対する価値観を変えることが、出来たと思っていますし、お金を使う時にもこの

使い道は正しいのかと考える様になりました。この原稿を書きながらも今は亡き祖父母を慕う気持ちはあふれています。

今月号は数日前に何となく祖父母を思い出したのでこの様な話をさせて頂いた次第です。

院長：刀川